



高久雅生 Masao TAKAKU
准教授 Associate Professor
博士(情報学) Ph.D.

Keywords: 情報探索, 電子図書館, 情報行動, 情報組織化, 学術コミュニケーション

Contact: masao@slis.tsukuba.ac.jp

Web: <http://www.slis.tsukuba.ac.jp/takaku-lab/>

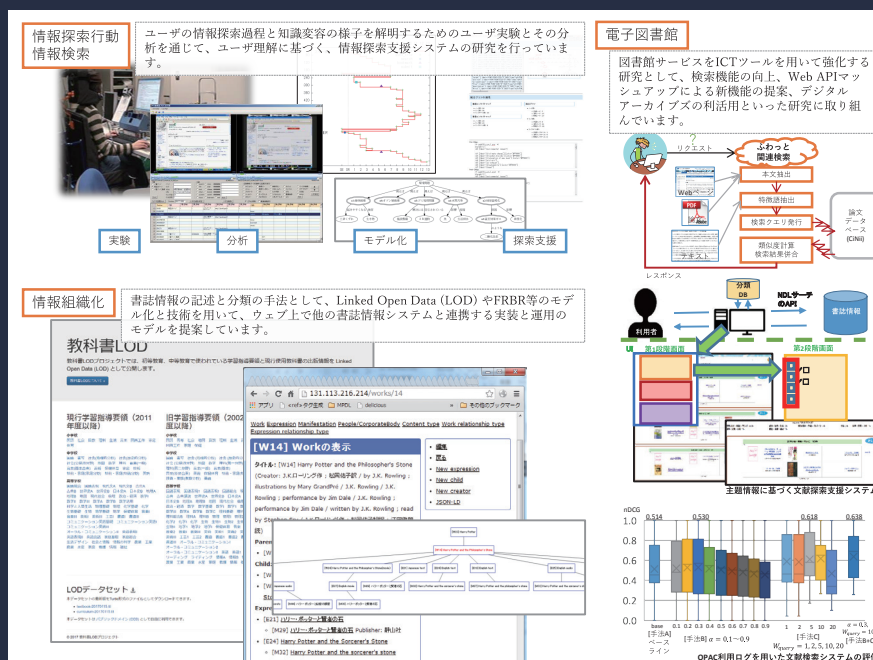


筑波大学
University of Tsukuba

研究概要

われわれが日常的に求める情報にアクセスするには、そのアクセスを効果的に支援する技術が欠かせません。図書館情報学の領域では伝統的に、文献の情報を記述、分類して、主題情報等を付与する仕組みを通じて、情報組織化と標準的なアクセス手段の提供が行われてきました。急速に発展してきたウェブの世界では、これをより分散的で大規模に行う仕組みが必要となり、人々やコミュニティが知識により効果的にアクセスできるようにする研究が求められています。

高久研究室では、ユーザ理解と情報組織化手法に立脚した情報アクセス支援技術を研究しています。特に、調査学習型探索やブラウジング型探索における情報行動の解明、情報アクセス手法の研究に取り組んでいます。また、電子図書館やデジタルアーカイブ、オープンサイエンスプラットフォーム等、新しい学術情報サービスや学術情報流通の動向を見据えた情報アクセス手法の調査研究、実践も行っています。



論文

1) 高久雅生, 江草由佳, 寺井仁, 齋藤ひとみ, 三輪真木子, 神門典子. タスク種別とユーザ特性の違いが Web 情報探索行動に与える影響: 眼球運動データおよび閲覧行動ログを用いた分析. 情報知識学会誌, vol.20, no.3, pp.249-276 (2010-11) (2011 年度 情報知識学会 論文賞受賞)
<https://doi.org/10.2964/jsik.20-026> 2) Yuka Egusa, Hitomi Saito, Masao Takaku, Hitoshi Terai, Makiko Miwa, Noriko Kando. Using a Concept Map to Evaluate Exploratory Search. The 3rd Information Interaction in Context Symposium (IIIX 2010), New Brunswick, NJ, USA, pp.175-184 (2010-08)
<https://doi.org/10.1145/1840784.1840810> 3) 田辺浩介, 常川真央, 高久雅生, 江草由佳. 疎結合構成による FRBR モデルに基づく書誌情報システム. 情報知識学会誌, vol.24, no.3, pp.321-341 (2014-10) https://doi.org/10.2964/jsik.2014_0314 4) Masao Takaku, Yuka Egusa. Simple Document-by-Document Search Tool "Fuwaat Search" using Web API. The 16th International Conference on Asia-Pacific Digital Libraries (ICADL 2014), LNCs, vol.8839, pp.312-319 (2014-11) https://doi.org/10.1007/978-3-319-12823-8_32 5) 高久雅生. 知識をリンクする技術. 逸村裕 (編), 田窪直規 (編), 原田隆史 (編). 図書館情報学を学ぶ人のために. 第 5 部 第 19 章. 世界思想社. 京都. pp.201-213 (2017-04)

社会貢献活動

電子図書館やデジタルアーカイブの領域における研究成果をオープンソースソフトウェアとして発信しています。特に図書館システムの領域においてオープンソースソフトウェアを活用する活動として Project Next-L を 10 年以上にわたって実践しています。さらに、より広く図書館や博物館等の MLA 領域の研究開発において、技術的な課題解決を行う仲間作りやコミュニティ・ネットワーク形成の一環として、2010 年から Code4Lib Japan と呼ぶ活動に参画しています。

メッセージ

大学は学び方を学ぶ場、研究とは何かを学ぶ場です。大学での学びや研究はそれだけでは役に立ちませんし、モノによっては10年と経たずに役立たずになっています。だからこそ、長く学び続けるための手がかかりと方法論を実践する必要があります。研究テーマは何であれ、オープンな姿勢で研究に取り組んだ結果は、たとえ学び成果としては小さな一歩であっても、自分自身には重要な学びになると信じています。

関連情報サイト

1) <http://www.slis.tsukuba.ac.jp/takaku-lab/>